

## 【解答例】

### I

この論文では、ジェームズ・ロビンソンおよびサイモン・ジョンソンと共同で進めてきた比較（経済）発展、植民地主義、そして制度変化に関する研究の主な動機と論点を概説する。次に、これらのアイデアを整理し、イノベーションとテクノロジーに関する私の研究と結び付けるための簡単な枠組みを提供する。この枠組みは、効用・技術可能性フロンティアを中心としており、これは、所与の技術と異なる技術選択による作用に対するある社会における可能な資源配分を描き出す。この枠組みは、様々な制度、市場構造、規範、そしてイデオロギーが、フロンティアに沿った動きとフロンティアの変化にどのように影響を与えるかを明らかにし、制度の持続につながる社会的な力と制度変化の引き金となり得る社会的な力の簡単な定式を提示する。

### II

この論文では、柔軟な非線形推定量を用いて、製品市場競争（PMC）とイノベーションの関係を検証する。競争とイノベーションの関係は逆 U 字型をあらわし、産業は U 字型の増加区間と減少区間の両方に分布していることが明らかになった。この逆 U 字型は、英国における一連の主要な政策改革を活用して競争の因果的影響を特定するなど、様々な代替的設定に対して頑健である。

この逆 U 字型を推進する要因を理解するため、段階的イノベーションに関する現行の理論文献を拡張し、逆 U 字型予測を提供するモデルを構築する。このモデルでは、競争はイノベーションによる追加的な利益を増加させる可能性があり、「脱競争効果」と呼ばれる。一方、競争は後発企業のイノベーションへのインセンティブを低下させる可能性があり、「シュンペーター効果」と呼ばれる。これらの2つの効果のバランスは、競争レベルが低い場合と高い場合で変化し、逆 U 字型の関係を生み出す。

### III

問1 上記の二重線箇所 (1) と (2) について、本文に即して説明し、その説明を日本語で解答欄に記述しなさい。

(1)モラルハザード（道徳的陥穽）

火事を例にとれば、出火には外的な条件と、不注意、あるいは極端な場合には放火のような個人の選択とが結びつく場合があるかもしれない。ゆえに、火災保険を掛けるということは、個人が自分の行動を変える誘因を作り出すということであって、コントロールできない出来事に対する純粋な保険ではないということである。

## (2)逆選択

生命保険を例にとると、保険をかける側は自分のリスクを保険会社よりも知っている。一方、保険会社は保険数理（計算）に基づいて平均的な保険料を設定する。このとき、高リスクのグループは平均以上に保険を購入するが、低リスクのグループは少なくしか購入しない。それゆえ、保険料金でウェイト付けした保険会社は保険計算上よりも不利になる。したがって、保険料を引き上げざるを得ないが、その結果、リスクの低いグループはますます保険を購入しなくなる。そして、さらに保険料を挙げざるをえない。これは、契約における当事者間の情報の不平等にある。

問2 波線箇所 (ア) を日本語に訳し、その訳を解答欄に記述しなさい。

(ア)

コア理論として知られる通常の経済分析では、ある産業における共謀の合意は安定的ではない。なぜなら、参加者の観点から、より好ましい、生産者や消費者を取り込むような代替的な分配の合意が常に存在するからである。

問3 波線箇所 (イ) にあるように、アダム・スミスは、波線箇所 (ア) に対してどのように述べているか、その内容を日本語で解答欄に記述しなさい。

(イ)

同じ産業に属する人々は、おそらく共通の経験があるため、互いにコミュニケーションをとることが容易であるため、ある商品の生産者間の共謀の合意につながる情報交換は、共謀を妨げるような提携を形成するために必要な費用よりもはるかに安価である可能性がある。したがって、共謀の合意は実際には安定している可能性がある。

## 【出題意図】

2025 年度博士課程後期課程入試の英語の大問 I、II、III の出典はノーベル経済学賞受賞者のノーベル賞受賞講演（専門雑誌掲載）（I）、研究論文（II）、そして講演集（III）である。

I はアセモグルらの経済発展に関する研究における技術進歩と制度変化との関係について述べたものであり、その内容を理解できているかを確認した。

II は I と関連しているが、アギオンらによる競争とイノベーションの関係を実証的に示したものであり、その研究結果の要点をまとめている文章をきちんとまとめることができるかを確認した。

そして、III はすでに古典と言えるアローの『組織の限界』というタイトルの講演集から、後期課程においては基礎的な経済専門用語、「モラルハザード」と「逆選択」について問題文に即して説明する問題である。また、最後の問題では、アローは、「共謀の合意」の不安定性に対するアダム・スミスのコメントをまとめているが、そのポイントを理解できているかを確認した。

全体的に問題文も長く、問題の水準もやや難しいかもしれないが、研究者として専門的な知識を身につけるためには、この程度の問題を 6 割以上は正解してもらいたい。